



環境・安全衛生報告書 2025

Environmental, Health, and Safety Report 2025



CoorsTek GK Group

Environmental, Health, and Safety Report 2025

Contents

The CoorsTek Way	P02
経営理念	P02

企業メッセージ	P03
---------	-----

環境報告

■安全衛生・環境方針	P04
■環境管理体制	P05
■環境活動の目標と実績	P06
■環境負荷の状況	P08
■地球温暖化防止	P09
■廃棄物管理	P10
■化学物質管理	P11
■グリーン調達	P12
■環境への取組みの歴史	P13

安全衛生報告

■安全衛生管理体制	P16
■業務災害発生状況	P16
■安全衛生活動の目標と実績	P17
■安全衛生活動	P18

地域との関わり

■地域社会への責任	P21
■地域社会との協調	P21

編集方針

2003年に環境報告書を発刊以来、今回で23回目の発行になります。本レポートは、クアーズテック合同会社グループが果たすべき社会的責任と、社会課題解決のためにしている取組みについて、環境と安全衛生活動を中心に、お客様、従業員、地域住民の方々など多くの皆様にわかりやすくお伝えすることを目的に発行しています。

対象範囲

本報告書は、以下の事業所および関係会社を対象にしています。

クアーズテック合同会社

- 本社 東京都品川区大崎二丁目11番1号
(大崎ウィズタワー)
- 小国事業所 山形県西置賜郡小国町大字小国町378
- 秦野事業所 神奈川県秦野市曾屋30
- 刈谷事業所 愛知県刈谷市小垣江町南藤1
- 長崎事業所 長崎県東彼杵郡川棚町百津郷296

連結子会社

- クアーズテック徳山株式会社
山口県周南市江口2-1-32

(備考)

- ・上記4事業所(本社除く)と連結子会社1社を合わせて「事業場」と表記します。
- ・環境報告に関するデータには、本社は含まれません。
- ・本報告書では、親会社であるCoorsTek, Inc.のグループ会社を総称してクアーズテックグループと表記しています。
- ・本報告書では、クアーズテック合同会社および上記の連結子会社をクアーズテック合同会社グループと表記しています。
- ・会社概要は弊社ホームページをご参照ください。
<https://www.coorstek.com/jp/about/corporate-overview/>

対象期間

2024年度(2024年1月1日から2024年12月31日まで)の活動結果を対象とし、一部それ以外の内容を含みます。

発行時期

前回: 2024年4月 次回: 2026年4月発行予定

参考にしたガイドライン

- 環境省 『環境報告ガイドライン 2018年度版』
- 環境省 『環境会計ガイドライン 2005年度版』

The CoorsTek Way 経営方針

The CoorsTek Way

ビジョン | 素晴らしさをもっと実感できる世界に

より良い今日のために

- ・革新の歴史から**新たな発想を得ます**
- ・自らの行動に**誇りを持ちます**
- ・お客様、同僚、家族、コミュニティ、そして世界に卓越した**価値を提供します**
- ・自らが関わるコミュニティの人々の生活をより良くする、**最先端の解決策を提案します**

ともに発展するために

- ・一人ひとりの持つて生まれた価値や尊厳を**尊重します**
- ・責任、リスク、機会、報賞を**分かち合います**
- ・お客様のもっとも困難な問題を解決するために、**ともに力を尽くします**
- ・一貫性、誠意、敬意を持って**行動します**

より良い明日のために

- ・限界を超えて**挑戦します**
- ・未来の挑戦に向けて**進化します**
- ・地球規模で**考え**、地域に根ざして**行動します**
- ・長期的な視点に立ちつつ、短期的な成果を**実現します**

クアーズテック合同会社グループの経営理念

1. お客様第一

お客様の満足を第一とし、ユニークな着眼点とダイナミックな発想により価値ある製品とサービスを提供します。

2. 企業価値の向上

たゆみない経営変革と技術革新により企業価値を高め、クアーズテックグループとつながりを持つすべての人々の信頼と期待に応えます。

3. 社会への貢献

地球環境保護と人の安全への配慮に最優先で取り組み、良き企業市民として地域社会および地球社会との共生を図りながら、広く社会の発展に貢献します。

4. 公正な企業活動

企業の社会的責任を自覚し、国内外の法令や社会規範に基づいたルールを順守し、公正で誠実な企業活動を行います。

5. 個の尊重

社員の自主性・創造性を尊重し、自己成長と進化を追求する公平で自由闊達な企業風土を醸成します。

Corporate Message

企業メッセージ**素晴らしさをもっと実感できる世界に**

クアーズテックグループは、110年以上の歴史をもつテクニカル・セラミックスメーカーで、「素晴らしさをもっと実感できる世界に」をビジョンとして、幅広い事業領域において、お客様や市場の直接的な要望を基礎にした開発により、つねにより良い製品を提供し続けています。

同時に当社は、経営方針の一つに「地球環境保護と人の安全への配慮に最優先で取り組む」ことを掲げ、「環境保全」や「安全衛生」が事業を続けていく上で最も重要な要素の一つであると位置づけて、さまざまな活動を通じて社会の発展に貢献していきます。

2021年には、サステナビリティ・ステアリング・コミッティを立ち上げ、サステナビリティへの取り組みを加速しています。また、私たちは、サービスを提供する市場、製品、そしてエネルギー効率の向上と廃棄物削減を中心とした継続的なイノベーションを展開するプロセスにおいて、より高い目標の達成を目指しています。

クアーズテック合同会社では、環境面においては、地球温暖化防止と資源の有効利用に向けた活動に取り組んでおり、地球温暖化防止では、CO₂排出量（Scope1,2）が2023年比で1%増加となりました。これは全体の生産量は減少したものの、新ライン立上げ等により増加したためです。

またクアーズテックグループでは2030年気候ビジョンとして、60%の廃棄物の転用、Scope1および2の排出量を42%削減^{※1}、20%の水の削減^{※1}、50%の再生可能エネルギーの活用を目標に掲げました。今後もエネルギー使用の効率化や再生可能エネルギーの活用に取り組み、さらなるCO₂排出量の削減や資源の有効活用、化学物質の削減への取り組みを推進していきます。

安全衛生面では、リスクアセスメントによるリスクの低減活動やエルゴノミクス改善、また、請負業者様の安全にも配慮するため、高所作業や限定空間における作業等のリスクの高い作業を都度確認し、事故防止に取り組みました。この活動は今後も継続していきます。

また、2024年は業務災害が多発したことや、ヒューマンエラーや危険予知不測に関わる事故が多かったことから、2025年は安全衛生重点事項に危険感受性の向上施策実施を盛り込み、継続的にリスク低減活動を行いながら人づくりの強化を図り、安全文化の醸成に取り組んでいきます。

私たちは、これからも事業を成長させて企業価値を向上させるとともに、サステナビリティへの取り組みを進め、ステークホルダーのみなさまによりご満足いただける企業となるよう諸活動を推進していきます。

クアーズテック合同会社

※1 2021年の数値を基準とする

環境報告

安全衛生・環境方針

安全で環境に配慮した事業運営を行うには、惜しみなく努力する心構えと、先取りして手を打つことが求められます。クアーズテックは、まず行動を起こすことこそが、労災や環境汚染事故を防ぐ鍵であると信じています。

- A (ANTICIPATE : 危険予知) 潜在的な危険を予知し、災害や事故を防ぐ対策を取ります。
- C (COMMIT : 約束) 自分自身と、ともに働く従業員、環境を大切にします。
- T (THINK : 学習) けが、事故、病気の原因を知り、それから逃れるすべを学びます。
- I (INITIATE : 開始) 継続的なプロセス改善、プログラム改善を行います。
- O (OWN IT! : 責任を持つ) けが、病気、環境汚染の防止は、私たちに課せられた責任です。
- N (NETWORK : ネットワーク) 従業員どうして最良の事例を共有し、法令を守るだけでなく、仕事の成果も高めるようにします。

環境活動

クアーズテック合同会社グループでは、環境保全への取組みを経営の最重要課題の一つとして位置づけ、1989年より「グループ環境管理規程」を制定し、自主的かつ継続的な環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

クアーズテック合同会社グループ環境活動項目

クアーズテック合同会社グループは、素材・技術・資産の結合により新たな価値を創造し、かかわりのあるすべての人々と豊かな未来を共有するマテリアル・サイエンス・カンパニーとして、経営理念に基づき“かけがえのない地球環境”のために、以下のとおり環境保全活動を推進します。

- (1) 環境保全への取組みを、経営の最重要課題の一つとして位置づけます。
- (2) 環境保全に関する法令、クアーズテック合同会社グループが同意したその他の要求事項および自主基準を順守します。
- (3) 事業活動にかかわる環境側面について、継続的な改善を行い環境汚染の予防に努めます。
- (4) グループ環境自主行動計画を設定し、地球温暖化防止のための CO₂ 排出削減、資源の有効活用などによるゼロエミッションおよび規制化学物質の排出削減に努めます。
- (5) グリーン調達を推進し、環境負荷の小さい原材料の購入に努めます。
- (6) 優れた環境技術や環境配慮型製品の開発・提供、地域・社会との協調連帯および環境保全活動を通じて、社会に貢献します。

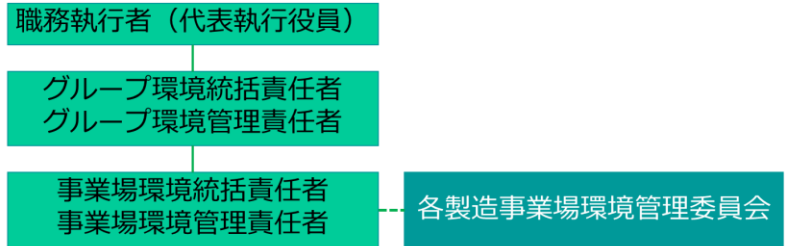
環境管理体制

環境管理体制

クアーズテック合同会社グループでは、環境管理を統括および推進するため、グループに環境統括責任者および環境管理責任者を設け、各製造事業所に環境統括責任者および環境管理責任者を選任しています。

また、事業場すべてにおいてISO14001の要求事項に準拠した環境マネジメントシステムを運用しています。

◆環境管理体制（体系図）



◆ISO14001 認証取得状況（2025年3月末日現在）

事業所	初回取得年月	認証機関
小国事業所	1998年2月	Intertek Certification Japan LTD.
秦野事業所	1998年3月	Intertek Certification Japan LTD.
刈谷事業所	2000年4月 ^{※1}	Intertek Certification Japan LTD.
長崎事業所	2000年12月 ^{※2}	Intertek Certification Japan LTD.
クアーズテック徳山(株)	1998年3月	(一般財団法人) 日本品質保証機構

※1 刈谷事業所は2009年4月に認証を返上しましたが、2017年11月に再度認証を受けています。

※2 長崎事業所は2009年12月に認証を返上しましたが、2016年3月に再度認証を受けています。

安全衛生・環境監査

(社内監査)

クアーズテック合同会社グループでは、各事業場に対してグループ環境管理責任者、グループ安全衛生担当管理者による社内監査を行っています。社内監査では、安全衛生・環境活動の実施状況、関連法令、会社の自主基準などの順守状況を確認し、評価を行っています。



(秦野事業所)



(刈谷事業所)



(小国事業所)



(長崎事業所)



(クアーズテック徳山)

◆2025年度環境自主行動計画

取組み重点テーマ	2025 年度環境自主行動計画
地球温暖化防止	・過去5年度間のエネルギーの使用に係る原単位（原油換算／調整 DC）を年平均 1%以上改善する。
資源の有効活用	<p>・資源の削減目標は、各事業場で設定する。</p> <p>秦野事業所 ①廃棄物削減：以下項目を 2024 年度実績以下にする。 （製造部門）廃棄物排出量原単位 （間接部門）リサイクルセンター持ち込み量 ②2021 年度の水の使用量原単位（使用量／総労働時間）に対し、10%以上削減する。 ③PRTR 該当物質の使用量を 2024 年度実績に対し 1%以上削減する。</p> <p>刈谷事業所 ①総排出量原単位（有価物と廃棄物／投入量）を 2024 年実績以下にする。 ②2021 年度の水の使用量原単位（使用量／総労働時間）に対し、10%以上削減する。</p> <p>小国事業所 ①廃棄物の最終処分率（埋め立て廃棄物／総排出量（有価物と廃棄物））を 2024 年度実績（4.55%）以下にする。 ②2025 年度の排水量（酸排水＋研磨排水）を 2021 年度比 2%削減する。</p> <p>長崎事業所 ①廃棄物の埋め立て地転換率を 2024 年度比 2 %改善する。 ②水の使用量削減：2021 年と比較して総労働時間当たりの使用量を 10%削減する。</p> <p>クアーズテック徳山 ①廃棄物の最終処分率を 2024 年度実績以下にする。 ②水の使用量を 2024 年度実績の 1 %を削減する。</p>

環境会計

クアーズテック合同会社グループは、環境保全に関するコストを把握し、企業活動に活用しています。

◆環境保全コスト

単位：百万円

分野	内容	投資額*1	費用額*2
I 事業エリア内コスト		102.5	648.6
I - i 公害防止コスト	大気、水質、土壌、悪臭などの汚染防止など	8.8	385.6
I - ii 地球環境保全コスト	地球温暖化防止、オゾン層破壊防止など	93.7	104.8
I - iii 資源循環コスト	資源の効率的利用、廃棄物のリサイクルなど	0	158.2
II 上下流コスト	グリーン調達、製品などの回収・リサイクル化など	0	0
III 管理活動コスト	環境負荷監視、緑化、美化など	0	44.3
IV 研究開発コスト	環境配慮型製品の開発など	0	39.6
V 社会活動コスト	情報開示など	0	0.3
VI 環境損傷コスト	自然修復など	0	0.1
環境保全コスト 合計		102.5	732.9

対象期間：2024年1月から2024年12月まで 対象：5事業場

※1 投資額：減価償却資産への投資額のうち、環境保全を目的とした支出を計上しています。

※2 費用額：設備の減価償却と、環境保全を目的とした支出とを合わせて計上しています（人件費含む）。

◆環境保全効果

2023年比で、エネルギー量は増加しましたが、金額は電力単価の低下により全体としては減少しました。用水量は地下水の減少により減量となっていますが、上水と工業用水が増加したため金額は増加しました。廃棄物量はほぼ同等でしたが、金額は処理単価上昇の影響で増加しました。

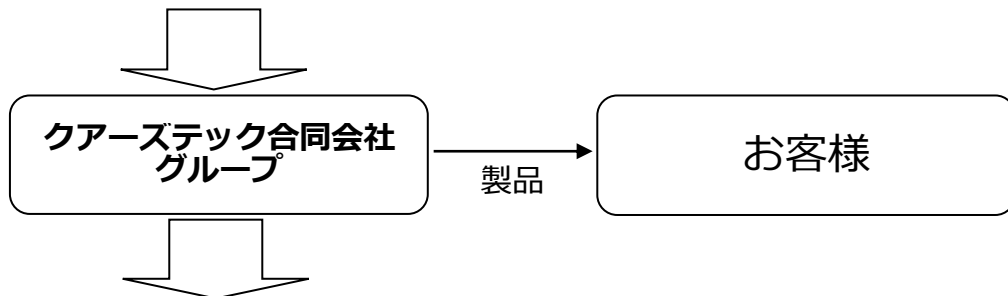
実質効果 項目	2023 年度比 環境負荷量	金額
エネルギー量	88 千GJ増	128 百万円減
用水量	22 千 m ³ 減	4.2 百万円増
廃棄物量	4 t 減	24.0 百万円増

環境負荷の状況

事業活動に伴う環境負荷データを継続的に収集・分析し、環境負荷低減活動に取り組んでいます。

INPUT

エネルギー投入量			主要原材料および主要原料ガス※1		
購入電力	889,193	GJ	シリカ	4,136	t
購入電力（非化石）	134,850	GJ	カーボン		
LPG	55,516	GJ	炭化ケイ素		
A重油	36,807	GJ	コールタール、タールピッチ		
灯油	5,294	GJ	シリコン		
都市ガス	4,771	GJ	銅		
軽油	171	GJ	四塩化珪素		
ガソリン	246	GJ	-	-	-
蒸気	146	GJ	-	-	-
-	-	-	-	-	-
総エネルギー投入量	1,126,994	GJ	-	-	-
水資源投入量			PRTR 法該当物質取扱量		
上水、工業用水	160	万 m ³	炭化ケイ素、ふっ化水素及びその水溶性塩、他	559	t
地下水	23	万 m ³	-	-	-



OUTPUT

大気環境への排出			廃棄物排出		
窒素酸化物	2	t	廃棄物総排出量	3,914	t
硫黄酸化物	1	t	最終処分量	444	t
PRTR 法該当物質排出量（大気）	2	t	PRTR 法該当物質移動量	38	t
温室効果ガス			水環境への排出		
CO ₂ 排出量（Scope1）	6	千 t-CO ₂	BOD※2 + COD※3	13	t
CO ₂ 排出量（Scope2）	43	千 t-CO ₂	SS※4	10	t
輸送にともなう CO ₂ 排出量（Scope3 カテゴリ 5,9）	1	千 t-CO ₂	排水量	401	万 m ³

対象期間：2024年1月から2024年12月まで

対象：5事業場

※1 主要原材料および主要原料ガスは、年間100 t以上使用しているものを記載しています。

※2 BOD：生物化学的酸素要求量

※3 COD：化学的酸素要求量

※4 SS：浮遊物質量

地球温暖化防止

地球温暖化防止に向けたCO₂排出削減の取組みを推進しています。

CO₂排出削減

クアーズテック合同会社グループでは、生産性向上や各種省エネ施策によりCO₂排出削減に取り組んでいます。

2024年度のCO₂排出量（Scope1,2）は、全体の生産量は減少したものの新ライン立上げ等により増加し前年度比1%増加となりました。過去5年間のエネルギーの使用に係る原単位（原油換算／調整DC）の前年度比率は、生産量の減少の影響が大きく、2.6%増加しました。

◆CO₂排出量とエネルギー原単位の前年度比率の推移



備考) 2023年以前のCO₂排出量を最新のCO₂排出係数に合せて修正しています。

CO₂排出削減のための取組み事例

◆CO₂排出削減のための取組み事例（抜粋）

改善事例名	実施事業場	改善内容	CO ₂ 削減量
事例1 電力使用量削減	秦野事業所	照明を省エネ型に更新、空調機の運用方法の見直し、循環ポンプのインバータの活用等により電力使用量を約74MWh/年削減しました。	30t - CO ₂
事例2 電力使用量削減	刈谷事業所	照明、空調機、送水ポンプ等を省エネ型に更新、空調機の運用方法の見直し等により電力使用量を約98MWh/年削減しました。	39t - CO ₂
事例3 電力使用量削減	小国事業所	照明、空調機等を省エネ型に更新、操炉効率の改善、空調機の運用方法の見直し等により、電力使用量を約1,609MWh/年削減しました。	619t - CO ₂
事例4 電力使用量削減	長崎事業所	照明、チラーを省エネ型に更新、空調機、ファンの運用方法の見直し、インバータの活用、熱処理炉のキャパUP等により電力使用量を約243MWh/年削減しました。	97t - CO ₂
事例5 電力使用量削減	クアーズテック 徳山	照明、空調機、研磨機を省エネ型に更新、ファン、ポンプ、ヒーター、チラーの運用方法の見直し等より電力使用量を約162MWh/年削減しました。	68t - CO ₂



循環ポンプのインバータ (秦野事業所)



人感センサー付きLED (小国事業所)



冷却水のインバータ (長崎事業所)



盤用クーラーの更新 (クアーズテック徳山)

廃棄物管理

廃棄物の3Rをキーワードに、循環型社会の実現に貢献する活動を展開しています。

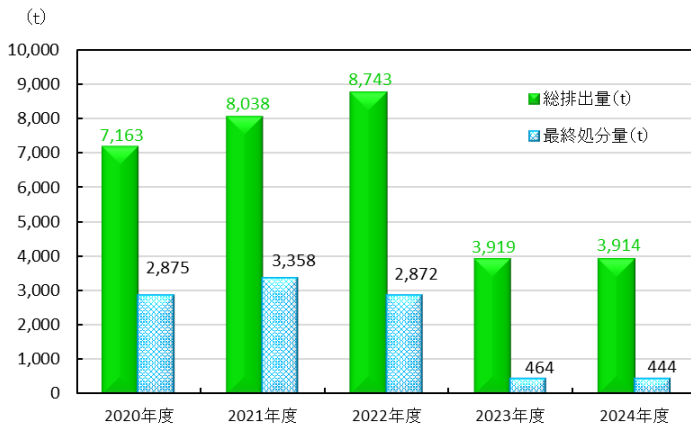
ゼロエミッションに向けた取組み

各事業場では、リサイクルセンターを設置し、廃棄物を適正管理するとともに、廃棄物の3R：Reduce（発生抑制）、Reuse（再使用）、Recycle（再資源化）をキーワードとして、製造歩留向上による不良の発生や材料ロスの極小化、汚泥や製品屑のリサイクル先の開拓などを進めて最終処分率（最終処分量／総排出量）を改善し、循環型社会の実現に貢献する活動を展開しています。

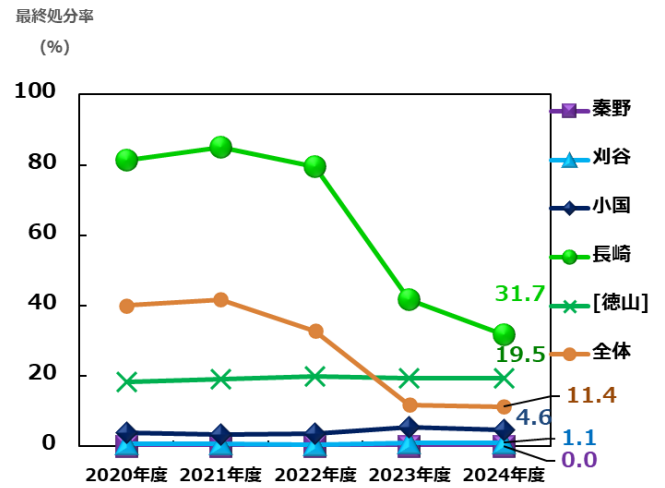
尚、秦野事業所はゼロエミッション^{※1}を継続しています。

※1 ゼロエミッション：最終処分率を1%以下にすること。

◆総排出量と最終処分量の推移



◆各事業場の最終処分率



化学物質管理

「一滴管理^{※1}」で化学物質管理の強化を図っています。

化学物質管理への取組み

クアーズテック合同会社グループでは、グリーン調達を進めており、欧州のRoHS指令^{※2}やREACH規則^{※3}についても対応しています。また、人の健康や安全、汚染の予防や環境負荷の低減などを考慮し、PRTR法該当物質、毒劇物法該当物質などを化学物質管理の対象にしています。化学物質の管理は、「一滴管理」を強化するとともに、使用量、排出量、移動量のデータ管理を徹底しています。

- ※1 一滴管理：油や薬品などの化学物質について、一滴の漏洩も見逃すことがないように、受け皿や防液堤を常に乾燥させるなど、漏洩が発見しやすい構造にし、日常の整理整頓、清掃を徹底し、日常点検で確認すること。
- ※2 RoHS(Restriction of the use of certain Hazardous Substances)指令：電気・電子機器に含まれる特定化学物質の使用制限に関する欧州の指令。対象物質は、鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、特定臭素系難燃剤(PBB、PBDE)およびフタル酸エステル類(4物質)の計10物質。
- ※3 REACH(Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals)規則：化学品の登録・評価・認可および制限に関する欧州の規則。

PRTR（化学物質排出移動量届出制度）対象物質の状況

クアーズテック合同会社グループで取り扱うPRTR対象物質は、新たに対象となった炭化ケイ素が、最も多くなっています。

◆2024年度PRTR対象物質の状況

単位：t

政令 番号	化学物質名	取扱量	排出量	排出				移動量	下水道 排出	廃棄物 排出
				大気 放散	水質 排出	土壌 排出	事業所内 埋立処分			
302	ナフタレン	9.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
349	フェノール	5.8	1.7	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
374	ふっ化水素及びその水溶性塩	19.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	
405	ホウ素化合物	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
453	モリブデン及びその化合物	6.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
665	セリウム及びその化合物	19.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.7	
667	炭化ケイ素	497.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	35.7	0.0	
	合計	558.7	1.7	1.7	0.0	0.0	0.0	37.9	0.0	

PCB（ポリ塩化ビフェニル）保管状況

現在保管中および使用中のPCB含有機器について、政令で定められた期間内に処理事業者にて処理が完了するまで、環境汚染が発生しないよう、厳重に管理しています。

◆低濃度 PCB 含有機器の保管・使用数量（2024年12月31日現在）

機器の種類	合計
トランス（低濃度 PCB）	7台
コンデンサ（低濃度 PCB）	5台
その他（低濃度 PCB 付着物、安定器）	7個

大気汚染・悪臭防止対策

排ガス処理装置の設置および燃料の転換などにより、大気汚染防止および悪臭防止対策をしています。また、排ガスの自主基準値を設け、環境負荷低減に努めています。

水質汚濁防止

各事業場では、排出水の自主基準値を設定し、排水処理施設の維持管理とともに、監視計器による排出水の監視や自動の排水遮断堰などにより、水質の汚濁防止に努めています。

また、各事業場では、事故が起きた場合でも迅速に対応できるように緊急対応訓練を実施しています。



薬液漏洩の緊急対応訓練
(秦野事業所)



最終放流口の緊急対応訓練
(刈谷事業所)



研磨排水オーバーフローの緊急対応訓練
(クアーズテック徳山)

グリーン調達

環境に調和した製品作りのため、環境負荷の小さい製品、部品、材料、原料の調達を推進します。

グリーン調達

クアーズテック合同会社グループは、環境配慮型製品を創出するため「グリーン調達ガイドライン」を制定し、有害物レス化および安全性の高い物質や環境負荷の小さい物質への代替など、安全衛生や環境に配慮した原料、部材、資材を優先的に購入するグリーン調達を進めており、欧州の RoHS 指令や REACH 規則についても対応しています。また、グリーン調達連絡会を実施し、関係部門において最新情報の意見交換や課題の解決を図っています。

クアーズテック合同会社グループ購買基本方針

・全世界最適調達

国内外を問わず「品質、価格、納期」に最も優れたサプライヤーと公正、公平な競争原理に基づく取引をします。

・信頼関係の構築

信頼関係に基づいた相互の利益を創造します。取引によって知り得た機密事項は外部に開示いたしません。

・順法の原則

あらゆる取引において、法の順守を基本行動と位置づけています。

・グリーン調達

環境に配慮のあるものを優先した調達活動を行います。

・鉱物問題への取組み

コンゴ民主共和国とその周辺国の非人道行為を行う武装集団の資金源となる紛争鉱物やそれから派生する金属を使用した材料、製品などを購入しないことを購買方針としています。お取引先様におかれましても、材料などの調達先の透明性確保をお願いいたします。

環境への取組みの歴史

クアーズテック合同会社グループは、創業から、事業活動を行う上で社会や環境との共生を大切にしてきました。さらに、環境経営の基盤を強化し、サステナブル経営[※]の確立を目指します。

※サステナブル経営：経済、社会、環境における企業責任を果たし、人間尊重の立場に立ち、持続可能な社会の実現に貢献すること。

クアーズテック合同会社グループの沿革	主な環境保全活動および社会からの評価	主な環境保全関係の設備改善
1918 刈谷事業所は、東洋耐火煉瓦(株)の商号で創立（後の東海炉材(株)）		
1928 小国事業所は、電気金融(株)の商号で創立（後の日本電興(株)）		
1956 川棚工場（現長崎事業所）設立		
1958 日本電興(株)を東芝電興(株)に商号変更		
1959 東海炉材(株)を東芝炉材(株)に商号変更		
1961 秦野事業所を設立		
1968 東芝電興(株)と東芝炉材(株)とが合併し、東芝セラミックス(株)（現クアーズテック(株)）として発足		
1971 研究所（現技術開発センター）完成		
1982 徳山セラミックス(株)（現クアーズテック徳山(株)）を設立		
1984 東海セラミックス(株)を設立		
1991 大口径シリコンウェーハ量産のため新潟東芝セラミックス(株)を設立		
	1951 エネルギー管理の優良工場表彰（熱部門）局長賞を受賞（小国事業所）	1954 山形県小国町に赤芝発電所（水力）完成（小国事業所）
	1974 エネルギー管理優良工場表彰（熱部門）長官賞受賞（小国事業所）	
	1978 エネルギー管理優良工場表彰（熱部門）通商産業大臣賞受賞（小国事業所）	
	1984 全国省エネルギー事例発表会にて省エネルギーセンター会長賞を受賞（刈谷事業所）	1985 廃熱利用無散水消雪装置を導入開始（小国事業所）
	1991 全社で塩素系有機溶剤を全廃	1990 第二赤芝発電所（水力）完成（小国事業所）
	1997 鉛無添加カーボンブラシ製造開始（小国事業所）	
	1998 緑化優良工場「東北通産局長表彰」受賞（小国事業所）	1998 最終放流口に緊急自動遮断ゲート導入（小国事業所）
	1999 愛知県工場環境緑化コンクール入賞（刈谷事業所）	1999 敷地境界に防音壁を設置（秦野事業所）
	1999 「発泡セラミックス」エコマーク認定取得（現長崎事業所）	
	2000 グリーン調達ガイドライン制定、グリーン調達取引先調査の開始	2000 国内全製造拠点で焼却炉撤去完了
		2001 臭気、VOC 対策のため、蓄熱燃焼式排ガス処理装置を設置（刈谷事業所）
		2004 全りん全窒素測定装置を設置（刈谷事業所）
		2004 最終放流口に集中監視システム導入完了（小国事業所、秦野事業所、刈谷事業所）
		2004 SOx 低減のため、焼成炉の燃料を重油から灯油に転換（現長崎事業所）

クアーズテック合同会社グループの沿革	主な環境保全活動および社会からの評価	主な環境保全関係の設備改善
	2005 エネルギー管理優良工場表彰（熱部門） 経済産業大臣表彰受賞（小国事業所）	2005 AC 第一・第二・第三工場焼成炉用 触媒燃焼式脱臭装置導入 （刈谷事業所） 2005 CO ₂ 低減のため、焼成炉の 燃料を灯油から LPG に転換 （現長崎事業所）
2006 東芝セラミックス(株)の株式の公開買付け を行う特別会社としてエスアイシーイン ベストメント(株)を設立 東芝セラミックス(株)の公開買付けに より同社を子会社化	2006 土壌・地下水汚染に係る住民説明会開催 （刈谷事業所） 2006 敷地内の土壌・地下水対策工事完了 （刈谷事業所）	2006 CO ₂ 低減のため、ボイラーの 燃料を重油から都市ガスに転換 （秦野事業所）
2007 株式交換により東芝セラミックス(株)を 完全子会社化 コバレントマテリアル(株)に商号変更 東芝セラミックス(株)と合併しコバレント マテリアル(株)として発足	2007 「ゼロエミッション」達成（秦野事業所） 2007 汚染土壌の浄化処理開始（刈谷事業所）	2007 焼成炉用触媒燃焼式脱臭装置 導 入（刈谷事業所）
	2008 廃棄物などの発生抑制・再使用・再生利用活動 推進功勞により、湘南地域県政総合センター 所長表彰受賞（秦野事業所） 2009 PCB 汚染土壌 無害化処理完了（刈谷事業所）	2008 特高変電所導入による重油使用 廃止（刈谷事業所） 2008 CO ₂ 低減のためトンネル焼成炉の 燃料を灯油から LPG に転換 （現長崎事業所） 2008 事業構造のシフト、エネルギー 転換による大気指定工場の解除 （刈谷事業所） 2008 新変電所運転開始（高効率の トッランナー変圧機器導入） （小国事業所）
2010 赤芝発電所を(株)F-Power へ譲渡	2012 産業廃棄物管理票の電子化（電子マニフェスト 運用開始）（秦野事業所）	
2012 シリコンウェーハ事業を Sino-American Silicon Products 社へ譲渡	2013 山形エコスマイルコンテスト参加。 準グランプリ 1 名、特別賞 3 名（小国事業所）	
2013 東海セラミックス(株)をカルデリス(株)へ 株式譲渡 コバレント販売(株)をヒビノ(株)へ株式 譲渡 2014 CoorsTek, Inc. による コバレントマテリアル株式取得	2013 PCB 機器全量を処理委託先に搬出完了 （現クアーズテック徳山(株)） 2014 PCB 機器全量を処理委託先に搬出完了 （現長崎事業所） 2014 2013 年度 ゼロエミッション達成（初） （小国事業所）	
2015 クアーズテック(株)に商号変更	2015 産業廃棄物電子マニフェスト運用開始 （小国事業所） 2015 PCB 機器 195 台、汚染物 13.8t を委託先で無害 化処理（小国事業所、秦野事業所、刈谷事業所） 2015 刈谷市より環境に配慮した取り組みを評価され “かりや eco 事業所”に認定される（刈谷事業所）	2015 排水処理施設 3 施設を 1 施設に集 約（小国事業所）
2018 刈谷事業所創業 100 年	2019 産業廃棄物電子マニフェスト運用開始 （刈谷事業所、長崎事業所） 2020 PCB 機器全量を処理委託先に搬出完了 （秦野事業所） 2021 PCB 機器全量を処理委託先に搬出完了 （刈谷事業所）	2017 焼成炉用触媒燃焼式脱臭装置の 導入（刈谷事業所）
		2021 弗酸排水処理施設の沈殿槽更新、 消石灰自動投入システム導入 （秦野事業所）

クアーズテック合同会社グループの沿革	主な環境保全活動および社会からの評価	主な環境保全関係の設備改善
<p>2022 高純度石英ルツボ事業(石英原料粉を含む)をモメンティブ・テクノロジーズに譲渡</p> <p>2022 クアーズテック長崎(株)はクアーズテック(株)長崎事業所に商号変更</p> <p>2024 株式会社から合同会社に会社形態を変更し、また、国内の販売機能を担うクアーズテック販売株式会社をクアーズテック合同会社に吸収合併し統合</p>	<p>2023 神奈川県環境整備厚労者表彰受賞(秦野事業所)</p>	<p>2023 スクラバー改造(秦野事業所)による排水のBOD低減</p>

Health and Safety Report

安全衛生報告

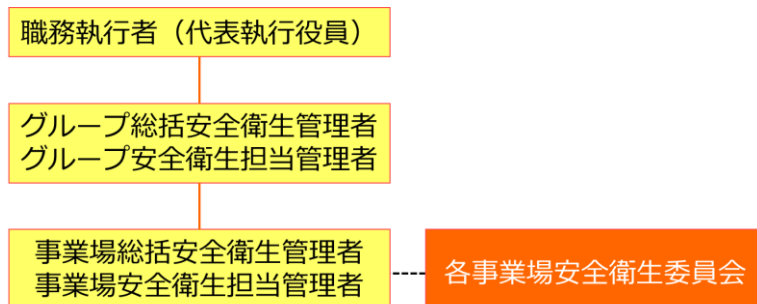
安全衛生管理体制

安全衛生管理体制

クアーズテック合同会社グループでは、安全衛生管理を統括および推進するため、グループに総括安全衛生管理者および安全衛生担当管理者を設け、各製造事業所に総括安全衛生管理者および安全衛生担当管理者を選任しています。

また、労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針（厚生労働省）に則り、リスクの低減活動を進めています。

◆労働安全衛生管理体制図（体系図）



業務災害発生状況

業務災害発生状況

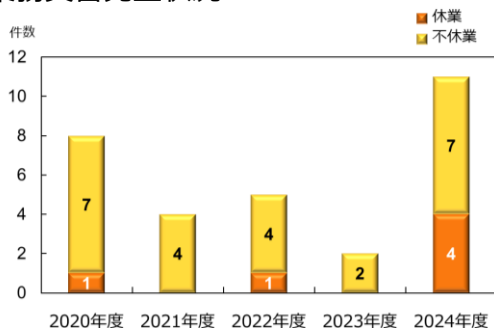
2024年度のクアーズテック合同会社グループにおける業務災害は11件、そのうち、休業災害は4件発生し、過去5年間で最も多い件数となりました。被災した方の傾向を見ると、作業の経験年数5年未満が7割を占めており、そのうち、45歳以上が約8割を占めていました。また、ヒューマンエラーを伴う業務災害が9割を占めていました。2022年度から開始したヒューマンパフォーマンス教育は、2024年度は、新規採用の従業員を対象に実施しました。引き続き、その他の安全教育、機械の保護装置・安全装置の整備やリスクレベルの改善、Foresight 4 Safety[※]、指差し呼称の定着、リスク低減などの取り組みを行い、事故の防止に努めてまいります。

2024年度は、クアーズテック徳山の1事業場が業務災害0件を達成しており、クアーズテック徳山は13年連続で無災害を達成しています。

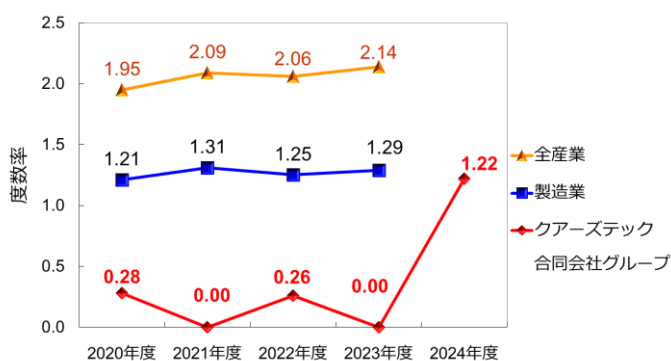
※Foresight 4 Safety：作業の前に考える4つの項目。

(何をしようとしていますか、どんな危険が潜んでいますか、あなたならどうしますか、誰に伝えますか)

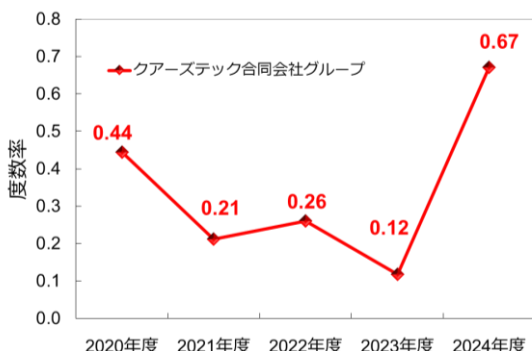
◆クアーズテック合同会社グループの業務災害発生状況



◆度数率^{※1}



◆20万時間当たりの度数率^{※2}



(備考) クアーズテック合同会社グループ以外の数値は、厚生労働省労働災害統計による。

※1 度数率：延べ労働時間数 100万時間当たりの災害（休業1日以上および身体の一部または機能を失うもの）発生数。ただし、休業1日以上および身体の一部又は機能を失う労働災害による死傷者数に限定して算出。

クアーズテック合同会社グループは、業務災害の発生数で算出。

※2 20万時間当たりの度数率：延べ労働時間数 20万時間当たりの全業務災害発生数。

安全衛生活動の目標と実績

労働安全衛生目標

クアーズテック合同会社グループは、人の生命を最優先とし、職場の安全確保と従業員および関係者の健康を大切にするために、安全衛生活動基本方針を定め、安全で快適な職場環境を維持し、業務災害および職業性疾病の防止に努め、また、自らの健康づくりを推進しています。

◆2024年度 重点事項の実績

2024年度 重点事項	目標	実績	評価 ^{※3}
1. 業務災害ゼロに向けた取組み	(1) リスク低減の推進： リスクアセスメント実施とリスク改善		
	・リスクレベル ^{※1} (安全、化学物質)Ⅱ,Ⅲの改善	レベルⅡ：計画比 145%改善 レベルⅢ：計画比 105%改善	◎
	・エルゴノミクス ^{※2} の改善	計画比 107%改善	○
2. 心身の健康維持増進	・統一 RA 評価基準を用いて RA 実施	100%完了	○
	(1) 健康診断結果の改善の啓蒙推進	・産業医、労働衛生コンサルタントによる教育 ・健康診断での有所見者の2次検診受診率：55%（2023年比0.5ポイント向上）	○
	(2) メンタルヘルスの環境の改善・向上	・計画どおり実施	○

※1 リスクレベルⅡ：計画的に低減対策を要するリスク、Ⅲ：優先的に低減対策を要するリスク

※2 エルゴノミクス：人間工学。身体への負担を小さくし、疾病が起こりにくくなるように機械設計や作業方法を最適化すること。

※3 ◎：目標を上回る成果、○：目標を達成、△：目標未達

◆2025年度 重点事項

1. 業務災害ゼロに向けた取組み (1) リスク低減の推進	2. 心身の健康維持増進 (1) 健康診断結果の改善の啓蒙推進 (2) メンタルヘルスの環境の改善・向上
----------------------------------	------------------------------------------------------------

安全衛生活動

安全衛生意識の高揚

例年、各事業場では、Foresight 4 Safety や全国安全週間、全国労働衛生週間に合わせ、関係会社や協力会社を含めた全員集会や安全大会により安全衛生講話や表彰などを行い、安全衛生意識の高揚を図っています。2024年度は、グループ総括安全衛生管理者メッセージ、各事業場長メッセージの伝達、標語作品の表彰、各事業場の評価基準による表彰、全国安全週間スローガンの確認などを行いました。



全国安全週間行事でのメッセージ伝達
(秦野事業所)



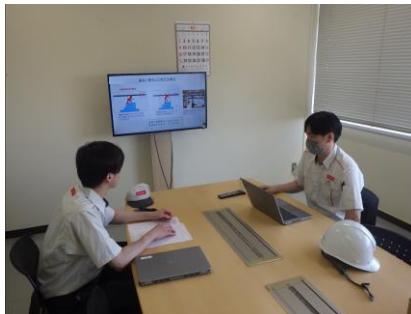
全国安全週間行事での表彰式
(小国事業所)



全国安全週間行事での安全集会
(長崎事業所)

安全衛生教育・訓練

安全衛生に関わる各種教育を年間安全衛生教育・訓練計画に基づき実施し、従業員の安全確保と安全衛生意識の高揚に取り組んでいます。



安全教育
(秦野事業所)



健康増進セミナー
(刈谷事業所)



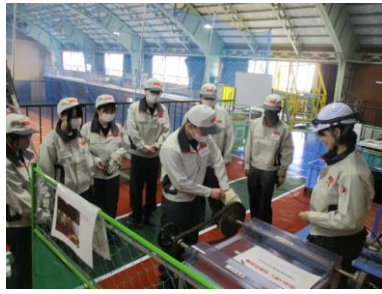
粉じん特別教育
(小国事業所)

(危険体感教育)

クアーズテック合同会社グループでは、業務災害を無くすために従業員一人ひとりのリスクに対する感度を上げることが重要であると考え、作業中に潜むリスクについて身を持って体感できる危険体感教育を行っています。



巻き込まれの危険体感教育
(秦野事業所)



巻き込まれの危険体感教育
(小国事業所)



切創の危険体感教育
(刈谷事業所)

(LOTOTO 教育：ロックアウト・タグアウト・トライアウト教育)

ロックアウト・タグアウト・トライアウト[※]は、機械や装置の点検、清掃、メンテナンスなどを行う従業員を機械の誤動作や誤操作による危険から守る手段として重要な手順です。全事業場でロックアウト・タグアウト・トライアウトの教育を重点的に実施しています。

※ロックアウト：機械や装置に供給されるエネルギー（動力）源を遮断し、起動装置に鍵を掛け、他人による機械の操作をさせないようにすること。

タグアウト：機械のエネルギー源の遮断中に、遮断した機械や装置の操作を禁止することを札（タグ）によって明示すること。

トライアウト：機械設備が動かないことを、残留エネルギーの確認と起動スイッチを入れて確認する（試す）こと。

(応急処置要員の確保)

各事業場において、応急処置要員を全従業員の 10%以上確保するために、消防署主催の普通救命講習会を開催しました。講習では、救命処置（AED の使用、心肺蘇生法）と、気道異物除去や止血法などの応急手当の方法について教育が行われました。



普通救命講習
(秦野事業所)



普通救命講習
(小国事業所)



普通救命講習
(クアーズテック徳山)

リスク低減活動

(マシンガードの整備)

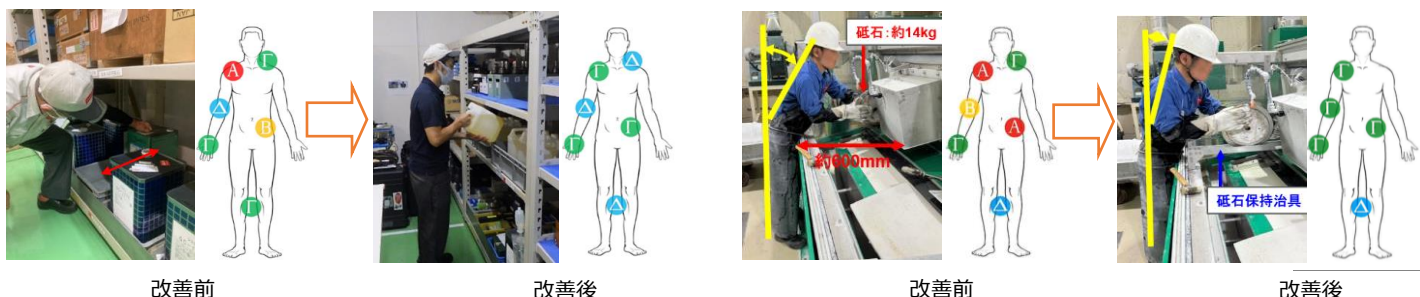
クアーズテック合同会社グループでは、グループ安全衛生ガイドラインに基づいて、マシンガード[※]の整備に取り組んでいます。新規導入設備に関しては、導入前の安全衛生・環境事前評価および設備デザインレビューにて安全性を評価し、また、既存の設備については、リスクアセスメントの評価結果に基づいて計画的にマシンガードを設置してきました。2022 年度に全事業所とクアーズテック徳山で、マシンガードの初期不具合の改善が完了しました。引き続き、定期的なリスクアセスメントや Foresight 4 Safety、ヒヤリハット情報などのリスク低減活動に基づいて、マシンガードの改善を図っていきます。

※マシンガード：機械の危険源に作業者が触れないようにするための扉、柵、機械の自動停止機能等。

(エルゴノミクス改善)

クアーズテック合同会社グループでは、従業員の作業負荷軽減を目的に、エルゴノミクスの評価結果に基づいた計画的な改善に取り組んでいます。

図の説明：A ストレス大 B ストレス中 C ストレス低 D ほとんどリスクなし



容器出し入れの負荷軽減：容器の小型化と保管高さ変更
(秦野事業所)

砥石交換作業の改善：砥石保持治具の設置
(クアーズテック徳山)

(妊婦の職場リスクアセスメント)

クアーズテック合同会社グループでは、妊婦にとって負担の大きい業務がないか評価するため、作業環境、作業姿勢、作業の制限に分類し、各項目についてリスクアセスメントを行い、その評価結果に基づき、安全と衛生が確保できるように努めています。

従業員の健康

(身体の管理)

クアーズテック合同会社グループでは、従業員が健康に働ける職場づくりを目指し、各種健康診断を実施し、その診断結果を基にした健康管理、健康全般に関する相談の機会を設けています。また、過重労働による健康障害防止対策として、従業員への産業医などによる面談や、従業員からの希望による面談にも随時対応し、一人ひとりの健康問題に対処しています。さらに、小国事業所では近年高年齢者の雇用の推進に伴い、高年齢作業者が増加しています。高年齢作業者に健康で安全に働いてもらうために、体力の状況を客観的に把握することも必要と考え、50歳以上を対象に転倒災害防止のための5種目（2ステップテスト、座位ステッピングテスト、ファクショナルリーチ、閉眼片足立ち、開眼片足立ち）の体力チェックを行いました。



座位ステッピングテスト



ファクショナルリーチテスト

高年齢作業者の体力チェック
(小国事業所)

(メンタルヘルス)

メンタルヘルスについては、予防の視点から、心の初期不調者への気づき、見落としの撲滅に向けて、管理者を対象とした研修を行うとともに、従業員自らが心の変化に気づくためのメンタルヘルス教育などを実施しています。また、カウンセラーの設置や、メンタルヘルス不調により休業した従業員が円滑に職場復帰できるように「職場復帰支援プログラム」を策定するなど、従業員に対するケアを行っています。



メンタルヘルスセミナー
(刈谷事業所)

地域との関わり

地域社会への責任

社会から信頼される企業を目指し、地域貢献活動を進めています。

災害への備え

■防災活動

火災や大地震が発生した場合に備えて、迅速かつ適切な緊急対応により被害を最小限に食い止めることを目的に、消防署の協力を得て、定期的に防災訓練や日中・夜間の避難訓練を行っています。



防災訓練
(刈谷事業所)



防災訓練
(小国事業所)



避難訓練
(長崎事業所)



避難訓練
(クアーズテック徳山)

地域社会との協調

クアーズテック合同会社グループは、社会貢献活動を通じて、地域社会との連帯と協調を図り、地域社会の一員としての責任を果たすと同時に、コミュニケーションの機会拡大に努めています。

また、クアーズテック合同会社では、従業員のボランティア活動を支援するため、未取得により失効する年次有給休暇を積み立てて、社会貢献活動などのための休暇に充当できる「ワイドプラン休暇制度」を設けています。

クアーズテック合同会社グループ行動基準より（抜粋）

社会とのかかわり

地域社会との連帯と協調を図り良好な関係を維持することにより、地域社会の一員としての責任を果たします。

地域貢献活動

■サイエンス講座と高校との地域連携授業

従業員の家族や未来を担う学生の方々を積極的に受け入れ、工場見学や実際の業務を体験する職場体験実習を実施しています。また、小国事業所では子供の健全育成を目的に小国町とパートナーシップを結んでいます。小国地区の高校と「労働と健康」をテーマに、「会社のワークライフバランス施策」、「危険体感教育」の授業を行いました。この授業は、地域とのコミュニケーションの一環として4年前から実施しています。私たちはこのような授業を通して、高校生の皆さんに将来自分が働いている姿をイメージしてもらえよう、若い世代に貢献していきたいと考えています。また、例年、小国地区の中学生を対象に当社の従業員がサイエンス講座を実施しています。



地域連携授業（高校生）
(小国事業所)



地域連携授業（中学生）
(小国事業所)



サイエンス講座（中学生）
(小国事業所)

■ボランティア活動

より良い地域社会の実現に向けて、地域と一体となった活動に取り組んでいます。各事業場では、地域の美化を目的とした定期的な事業場周辺の清掃を実施しています。



地域の美化活動
(刈谷事業所)



地域の美化活動
(小国事業所)



地域の美化活動
(クアーズテック徳山)

■その他

当社では、従業員等を対象にした献血活動を、各事業所の施設内にて毎年実施し、血液不足の現状を解消するため、日本赤十字血液センターに協力しています。



献血活動
(秦野事業所)

クアーズテック合同会社

2025年4月発行

■ 広報担当

〒141-0032

東京都品川区大崎二丁目 11 番 1 号（大崎ウイズタワー）

Tel : 03-5437-8411（代表） Fax : 03-5437-7172

URL : <https://www.coorstek.com/jp>

本報告書の内容や当社の安全衛生・環境活動へのご意見、ご質問などございましたら、上記までお問い合わせください。